

風しんの排除に向けて

～風しん抗体保有状況等に関する調査・研究～



長野県環境保全研究所 感染症部

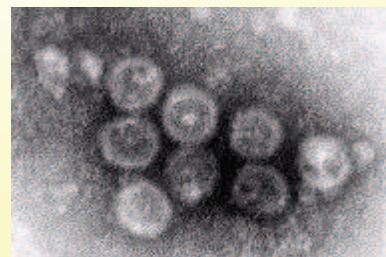
長野県内にお住まいの方の風しん抗体保有状況を把握することで、より効果的な風しんの予防対策につなげます。

なぜ研究が必要なの？

妊娠初期の女性が風しんにかかると、出生児に心疾患・難聴・白内障などを特徴とする「先天性風しん症候群」と呼ばれる障がいを引き起こすことがあります。これから生まれてくる赤ちゃんを守るためには、風しんの流行を起こさないよう社会全体で対策していくことが重要です。

厚生労働省では現在、公的なワクチン接種を受けていない世代を対象にした対策（第5期定期接種）を行い、社会全体の抗体保有率の底上げを図っています。

この研究では、長野県全体の風しん抗体保有状況や、ワクチン接種による抗体獲得状況等を分析し、より効果的な風しん予防対策につなげます。



風しんウイルスの電子顕微鏡像
(国立感染症研究所HPより抜粋)

どうやって研究するの？

感染症流行予測調査事業を通じて、県内にお住まいの方の、風しんウイルスに対する抗体価を測定します。年齢や性別、ワクチン接種の有無などのデータと併せて分析し、抗体保有率が低いグループ（風しんが流行しやすいグループ）を見つけます。



風しんウイルスに対する抗体価測定の様子
(ガチヨウ赤血球を用いた赤血球凝集抑制(HI)試験)

<第5期定期接種>

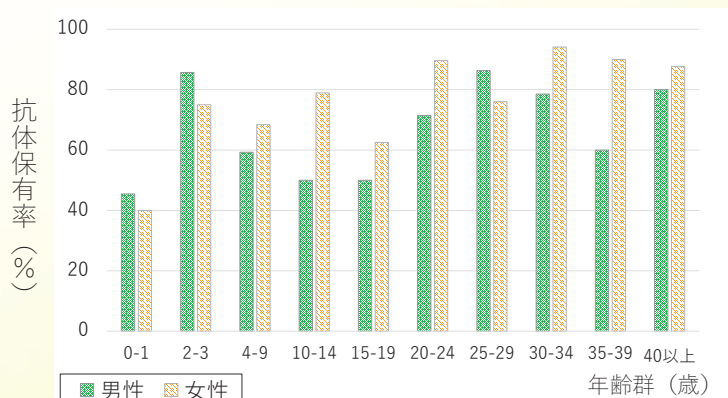
これまで他の世代に比べて抗体保有率が低いといわれていた、昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までに生まれた男性を対象に、無料の抗体検査が行われています。抗体価が低い場合、ワクチン接種も無料で受けることができます。

令和元年度から始まり、令和6年度まで実施されます。

これまでに分かったこと

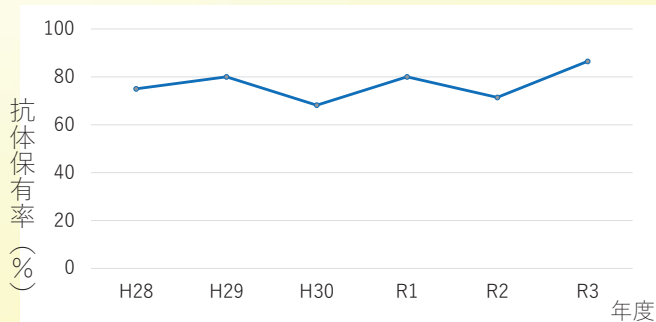
令和3年度の調査では、427人の方に御協力いただき、風しん抗体保有率は94.6%と高い状況でした。しかし、感染を防ぐために必要と言われる抗体価を持っている割合が低い年齢群が、男女ともに複数存在することが分かりました。

今後、十分な抗体を持っていない人のあいだで、風しんが流行する可能性があります。



第5期定期接種対象者の抗体保有率の推移からは、令和元年度の第5期定期接種開始前後で大きな変化はみられませんでした。

令和4年2月時点で、対象者の6割以上がまだ抗体検査を受けていない状況です。



第5期定期接種対象者の風しん抗体保有率の推移

対象者の方は、市町村から届いたクーポン券を使って、ご自身の抗体価を調べてみましょう！

